

「パラパラ天気図」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

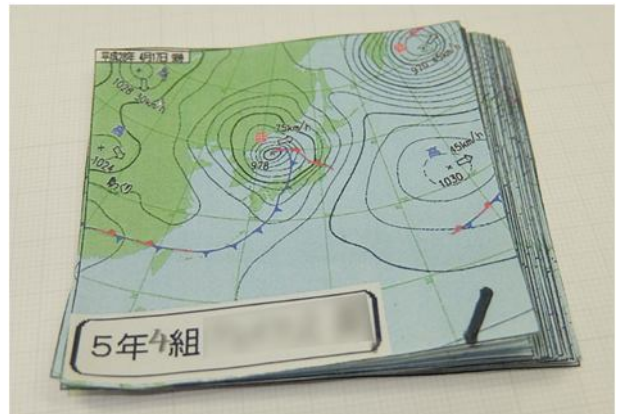
5年生の天気学習では、「日本列島付近の雲は、西から東に移動し、天気の変化もそれに従う。」ということが一番重要だ。地上からの空の観察では、このことを実感するのは難しい。このことを理解するには、天気図や衛星雲画像は、動画で見るのが一番良い。

もう一つは、新聞に載っている天気図・雲画像を数日分集めて重ね、パラパラマンガにする方法がある。子どもの頃、ノートの端に「棒人間」を描いて、それが動く遊びをよくした。あれを応用したものだ。

しかし、新聞の画像は夕刊を入れても12時間間隔なので、移動の速い低気圧や移動性高気圧の動きがわかりにくい。そこで、気象庁のホームページから3時間おきの天気図を印刷して、「パラパラ天気図」を作ってみた。これは衛星画像でも可能である。



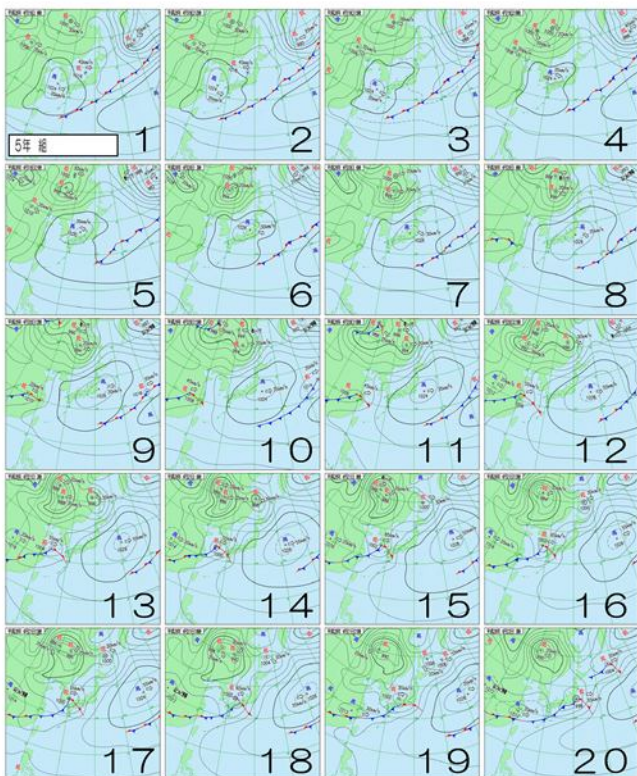
まずは丁寧に切り取って、番号順に重ねてゆく。



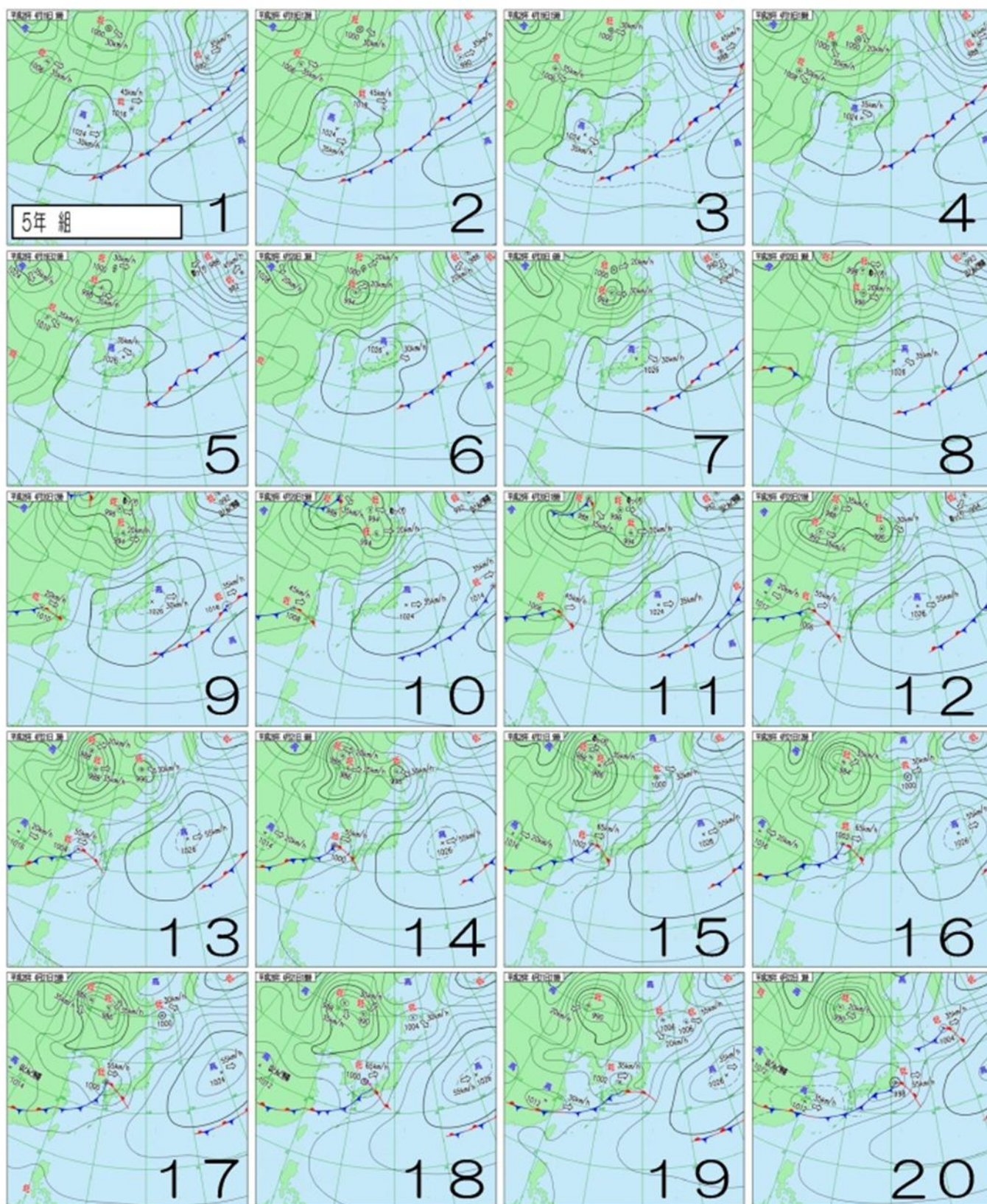
重ねたあと、写真のように右側の縁に少し傾斜をつけておくと、紙送りがスムーズになる。



できあがった「パラパラ天気図」。めくる速度を変えることで、動きがよく見える方法を探す。慣れると、面白いように低気圧や前線が動いて見える。



1枚の用紙に、20枚の天気図を印刷してある。約2日半分の天気図である。(2ページ目に拡大画像あり)番号は振っておいたほうが良い。記名場所は1枚目だけ、または裏面で良いだろう。切るとる前に、まずは全体を眺めてみる。それだけでも、低気圧や前線が西から東に移動していることがわかる。



画用紙よりも、A3の普通紙に印刷するのが一番良い。元画像はカラーだが、モノクロ印刷でも十分である。切り取る時は、特に各画像の右の縁を正確にカットすると、めくりやすくなる。うまくめくれるようにしたら、左端をホッチキスで留めると良い。

【子どものノートから（5年生）】

- ・「紙の天気図なのに、低気圧が動いて見えて、すごくふしぎでした。動きがよくわかりました。」
- ・「低気圧は西から東に動いた。低気圧だけではなくて、前線も西から東に動いている。」
- ・「高気圧も動くと言って、おどろきました。」